

種名と配列に関わる解説等（腕足動物門）

○目録の解説

腕足動物門においては、科以上の上位分類群を独立した見出し行として記入した。また、それら上位分類群すべてに対し、学名とその命名者・年を記入した。

岡山県野生生物目録の前版（2009）でのこの門の種数合計は3種であったが、今回の改訂で6種となった。新規追加種は近年の調査によって新たに生息が確認されている種に加えて、畠田和一が1930年代～1965年にかけて蒐集した軟体動物（貝類）の標本の中に同時代の岡山県産シャミセンガイ類標本が含まれているのが見つかり、過去に岡山県内に棲息していたことが明らかとなったものである。畠田標本に含まれていた2種は近年の確実な記録はなく、県内から絶滅した可能性が高い。

腕足動物門の目録作成は協力員の和田太一（NPO 法人南港ウェットランドグループ）・多留聖典（東邦大学東京湾生態系研究センター）・吉松定昭（元・香川県水産試験場）が中心となり、検討会委員の福田 宏の協力を得て行った。本解説は和田太一・吉松定昭・福田 宏が作成した。

○主な参考文献

- 遠藤一佳, 2000. シャミセンガイとエドワード・モース. *東京大学大学院理学研究科・理学部 廣報*, **32**(3): 1-2.
- 平瀬與一郎, 1910. *日本千貝目録*. 平瀬介館, 京都.
- 小林秀司・岩塚創大・比嘉大樹・山田 遼, 2018. 岡山県玉野市番田干潟ならびに倉敷市高洲干潟で採集されたシャミセンガイ. *Naturalistae*, (22): 67-72.
- 倉持卓司・上野香菜子・厚井晶子・長沼 毅, 2013. 瀬戸内海から採集されたドングリシャミセンガイ（腕足動物門，無関節綱，シャミセンガイ科）の分類学的再検討. *生物圏科学: 広島大学大学院生物圏科学研究科紀要*, **52**: 45-50.
- 毛利江元壽 [梅園], 1827-1849. *梅園介譜*. 著者自刊, [江戸].
- 吉松定昭・明石英幹・滝川祐子, 2013. 瀬戸内海海域の現生腕足類- 1 —腕足類の概要および生息情報-. *うみうし通信*, (78): 4-6.

番号	和名	学名	生息状況				生息環境区分	岡山県版 レッドデータブック	環境省 レッドリスト2017	備考
			北	中	南	海				
腕足動物門 Phylum BRACHIOPODA Duméril, 1805										
舌殻綱 Class LINGULATA Gorjansky & Popov, 1985										
舌殻目 Order LINGULIDA Waagen, 1885										
シャミセンガイ科 Family LINGULIDAE Menke, 1828										
1	オオシャミセンガイ	<i>Lingula adamsi</i> Dall, 1873	—	—	—	×	潮下帯砂泥底		絶滅危惧 I A類	畠田和一標本(備前末崎沖)
2	ミドリシャミセンガイの一種	<i>Lingula</i> aff. <i>anatina</i> Lamarck, 1801	—	—	—	×	潮間帯泥～砂泥底			毛利(1827-1849), 平瀬(1910), 遠藤(2000), 吉松他(2013); 畠田和一標本7382(備中連島)
3	ドングリシャミセンガイ	<i>Lingula rostrum</i> (Shaw, 1797)	—	—	—	+	潮下帯砂泥底			倉持他(2013)
4	シャミセンガイ属の一種	<i>Lingula</i> sp.	—	—	—	+	潮間帯～潮下帯砂泥底			小林他(2018)
カサシャミセン科 Family DISCINIDAE Gray, 1840										
5	スズメガイダマン	<i>Discradisca stella</i> (Gould, 1862)	—	—	—	+	潮間帯～潮下帯岩礁 附着性			
6	カサシャミセン	<i>Discradisca sparselineata</i> (Dall, 1920)	—	—	—	+	潮間帯～潮下帯岩礁 附着性			別名スゲガサチョウチン